



杉浦辰夫 議員

高浜市指定有形民俗文化財の「だるま窯」について

問 市指定有形民俗文化財に指定されるに至る過程について。

答 田戸町の「だるま窯」は、大正12年に築造され、原型に近い形で保存されているものは全国的にも非常に珍しく、我が国では最古級に属する「だるま窯」である可能性が指摘され、本市文化財保護委員会において、審議が行われ、市教育委員会が市長と協議のうえ、平成10年に指定をした。

問 管理保存のための謝礼は、年間どれだけ支払いをされているのか、今後増額があるのか。

答 年間5万円を市指定有形民俗文化財保存管理謝礼として支払いをしているが、台風など多い年は、所有者自身の負担により修復しており、個人の所有物だが、長きにわたり保存・維持管理しているご苦労を軽減させる必要がある、管理謝礼の金額を増額する金銭的な支援を行う

検討を考えている。

問 今後保存会の立ち上げの動きがあるが、市としての協力は。

答 毎年、三州瓦工業協同組合が主催となり、だるま窯取り組み事業として、港小学校の卒業記念作品の製作及びだるま窯に火を入れることによる地域の人々の交流、瓦文化のPRを目的に保存に向けた活動を実施している。窯を保存・維持管理することができると後継者を育成していくことも大きな課題である。南部地域の住民の皆さんが中心となり、他のだるま窯等の調査に赴き、保存会を立ち上げようとする機運が出てきており、市としては、人的支援を含めて、協力する方向で検討したいと考えている。

問 だるま窯の周辺に、塩焼瓦の煙突、現在製作中のかわらパークなどの観光スポットがあるが散策路に結び付けたいが市の考えは。

答 「まちの学校」として「ふるさと講座」を開催し、市内外へ情報発信し、その先に「散策路」という考え方に結び付けていくものと考えている。



長谷川 広昌 議員

予算編成改革について

問 本市の財政状況は硬直化しており、非常に厳しいため、自治体の最大の意思決定である予算編成の「抜本的な見直し」が必要と考えるがいかがか。

答 予算編成手法については、「これがベスト」といったものはなく、今後も引き続いて取り組むべき課題であると捉えております。

問 予算編成改革の具体的手法について、「行政評価と決算、複式簿記・発生主義による新たな公会計制度を導入し、財務諸表等を活用した予算編成」、「単年度予算編成から中期財政計画と予算と厳格に連動する複数年度予算編成」、「トップマネジメントの強化」の三つを取り入れ、特に平成26年度当初予算編成においては、市長のトップダウンで「メリハリのある予算編成」を期待しますが、いかがか。

答 「メリハリのある予算編成」の実現は大変厳しいものと捉えているが、本市における「財政の硬直化」は、ご指摘のとおりであり、この実情を何とかしなければならぬ思いは同様です。今後は、単なる既存事業の廃止や見直しという視点に留まることなく、むしろ、事業の再編・再構築といった視点に重点を置き、総合計画に掲げる「将来都市像」実現に向け、予算編成に努めてまいります。

問 「財政の硬直化」は現実であり、今こそ市民は、市長がリーダーシップを発揮し、それを打開することで市民生活がより豊かになることを望んでいると思います。今後策定する「中期財政計画」の中で、例えば3年後の経常収支比率の目標値を5%抑え、その分の予算額を、市民の皆さんの生活が、より豊かになるような施策への還元や公共施設の老朽化対策のための貯金などの計画に盛り込んでいただきたい。

答 「財政の硬直化」という難題に対し、引き続き市長を筆頭に職員一丸となり戦ってまいります。

